

**公益財団法人8020推進財団**  
**平成26年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録**

1. 事業名：市民参加型で実施される多職種連携による歯科保健啓発活動

2. 申請者名：社団法人 仙台歯科医師会

代表者名 長田 純一

担当者名 平田 政嗣

3. 実施組織：(一社)仙台歯科医師会・仙台市・(一社)宮城県歯科衛生士会・

歯と口の健康づくりネットワーク会議・歯と口の健康週間「市民のつどい」実行委員会

4. 事業の概要

歯科口腔の健康と全身の健康の関連性が明らかになりつつある中で、歯科疾患の予防・早期治療には、ヘルスプロモーションコンセプトに基づいた啓発活動が不可欠である。また、各ライフステージ・生活環境の差異を超えてシームレスに活動を実施するためには、それぞれの場面に係る多職種間での連携が不可欠であることは明白である。そこで今回、仙台市において過去に実施された多数の歯科保健活動(例えば昭和 60 年より続いている「市民のつどい」の変遷等)を調査・分析し、市民の「生きる力」をサポートするにふさわしい「市民参加型の歯科保健活動」に必要な要素を抽出する。それら要素から具体的方法を検討し、他職種連携のもとに歯科保健啓発活動を実施する。先の東日本大震災からようやく復興への第一歩を踏み出した現在、市民とともに歩む歯科保健啓発活動を検討・実施していくことをその目的とする。

5. 事業の内容

- ・昭和 60 年から実施されている仙台市歯と口の健康づくり「市民のつどい」(現、歯と口の健康週間「市民のつどい」)の現状と問題点を考察した。
- ・学童期の啓発活動を実施することを意図して「仙台市 PTA フェスティバル」に参加した。
- ・本会が管轄する仙台市以外の地域(黒川地区)への歯科保健活動の実施を行った。
- ・仮設住宅住民に対して、住民への新居移転を支援するイベントで歯科健診・歯科相談を実施した。

6. 実施後の評価(今後の課題)

- ・仙台市歯と口の健康づくり「市民のつどい」の現状と問題点を考察したところ、ある程度市民に周知され、毎年ほぼ一定した来場者を確保していることが分かった。また、実行委員会体制として、参加団体を確保しそれぞれが主体性をもって活動していることは評価できる。しかし一方では来場者の年齢層の偏りが見られることも否めない。また開始された時期とは歯科疾患の病態の変化が現れ、求められる歯科保健活動にも変化が生じてきていることも明白である。今後はその変容に柔軟に対応していく必要があると思われる。今後も活動の主軸の一つであることは変わらないが、上記の問題点を解決すべく、他のイベントへの参画も考慮すべきであった。本年度はその一つとして、特に学童期を補完するものとして「仙台市 PTA フェスティバル」への参加を行った。
- ・本会が管轄する仙台市以外の地域(黒川地区)への歯科保健活動の実施を行った。を本格的に実施していく準備に入ったことは評価できる。今後の継続的実施していくための協議を関連各所と続けていく予定である。
- ・いまだ十分な復興のなされていない被災地域および仮設住宅住民に対して、地域の歯科医師・衛生士、地域行政および地域住民と連携を取りつつ復興がなされるまで支援を続けていく予定である。

